

余丁校通信



8・9月の生活目標

決まりを守って安全に過ごそう。

すべては通過点

校長 佐藤 郁子

例年よりもさらに暑い（「熱い」と書いてもいいほどの）夏休みが終わりました。一足先に、熱戦を繰り広げたパリオリンピックも幕を閉じました。

個人的には盛り上がりのないまま開会式が始まった感じを受けたのですが、いざ競技が始まるとやはり凄かったです。

さすが、各競技の一流選手たちの戦いです。普段、馴染みのない競技や日本以外の選手のプレイにも夢中で見入りました。何かを極め、全力で取り組む姿は本当に素晴らしい。

そんな中、今回のオリンピックで、日本人選手に「ディフェンディングチャンピオン（前回優勝者）」が結構いることに気づきました。一番多いのは、やはりお家芸と言われる柔道。阿部兄妹、永瀬選手、素根選手、ウルフ選手と5人もいました。そして、水泳の大橋選手、体操の橋本選手、スケートボードの堀米選手、四十住選手、フェンシング男子エペ団体の見延選手、加納選手、山田選手。

見事に2連覇を達成した選手もいれば、力及ばずに負けた選手もいます。しかし、ディフェンディングチャンピオンで臨んだ選手の多くが、東京オリンピックで金メダルを取ってからの3年間で、「本当に辛かった」と話しています。柔道の永瀬選手は金メダル獲得後、まったく勝てない時期があったそうです。体操の橋本選手は怪我に苦しみました。スケートボードの堀米選手も追われる立場になり、孤独を感じ、「地獄だった」と話していました。

頂点を極め、誰からも注目される存在になっても、当事者にとっては、それで「終わり」ではない。金メダルを取ったことは、いわゆる「節目」ではあるけれど、「通過点」なのだと感じました。勝てない自分の内面と向き合う。怪我を抱えながらも競技する苦悩。好きだった競技の原点に戻る。それぞれの選手が辛い3年間の中で、自分との対話を重ね、またパリに挑んでいきました。勝敗は決しましたが、それも「通過点」です。大事なのはその後。通過点後の自分の進み方です。

さて、長い夏休みが終わりました。この夏休みは皆さんにとって、どのような通過点だったのでしょうか。次の通過点への道のりが大事です。

学芸会について

文化的行事担当

暑い夏休みが終わって、熱い想いを込めて学芸会の取り組みが始まります。

子どもたちが、色々な表現を経験する中で、どのように成長していくのか楽しみです。

どうぞご家庭でも練習から学芸会について会話をしていただき、当日を迎えてください。

詳細については、学芸会のお知らせとプログラムに記載します。どうぞよろしくお願いいたします。

クラブ活動について

特別活動担当

クラブ活動の時間では6年生が中心となり、4～6年生がそれぞれ所属しているクラブで活動しています。子どもたちが自分たちで1年間の活動内容を計画し、実施しています。

今年度は、イラストクラブが新設されました。クラブの発足は子どもたちからの提案や、部員集めなどを行い、児童自身の主体的な取り組みを通して新設しました。

ただ運動や絵を描く活動をするだけでなく、しっかりと4・5・6年生が異学年の交流ができるように見守っていきたいと思います。

学校公開のお知らせ

学校公開担当

子どもたちの学校生活の様子を保護者や地域の皆様に公開いたします。本校の教育内容についてご覧いただき、ご理解をいただく機会となれば幸いです。

【日程】9月5日(木)～9月7日(土)〔3日間〕

【時間】3日間とも午前中のみ公開（受付8:25～）

※参観人数や時間の制限はありません。

※午後の授業時数により各学年の下校時刻が変わります。

※授業内容につきましては、後日配布される『学校公開のお知らせ』をご参照ください。